



# 山椿

Yamatsubaki 85

Bansei Yaoya

八百屋 伴声 (47期)

2021年5月号の山椿にちょっとした自分の病気についてのエッセイを投稿していたのであるが、その後のある日、交渉事件の相手方である不動産業者の社員の人に初めて電話をかけ話をしたところ、その人から「先生、体のほうは大丈夫ですか?」という言葉が投げかけられたのであった。ええっ?初めて電話で話す相手がなんでオレの病気のこと知ってるの?と最初は意味が全然分からなかった。よく聞いてみると、相手方になった弁護士がどんな弁護士なのか情報収集するため、私の名前をググって(検索エンジンを使って検索すること)みたところ、2021年5月号の山椿の記事がヒットし、それを読んだとのことだった。事務所のHPを作っていないので、私の情報収集手段は山椿の記事とかしかないらしい。

そのことがあってから、その後も依頼者、相手方代理人等、いろいろなところから体調は大丈夫かと声をかけられるようになっていた。

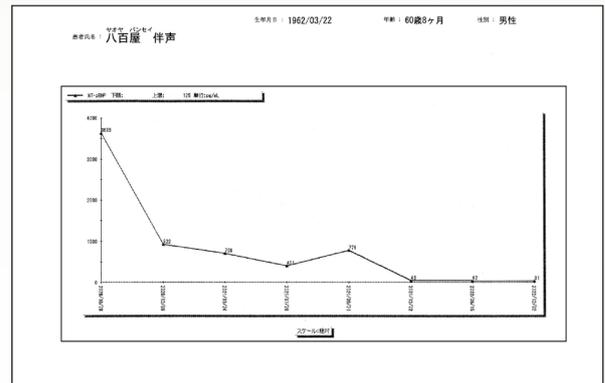
ただ、確かに心不全で入院し、特発性拡張型心筋症という難病認定を見事に受けてしまったのであるが、心不全の原因である心房細動は不整脈からきており、その不整脈を改善するため、実は2021年9月にカテーテルアブレーション

ンという手術を3泊4日のプチ入院で受けていたのであった。カテーテルアブレーション手術は、足の付け根からカテーテルを入れ、それを心臓まで到達させて、心臓の一

部を焼くことで不整脈の原因である異常な電気信号の発生を止めるという手術で、担当医から丁寧な説明を受けてもどうしてもそんな芸当ができるのか全く理解できない手術であった。

そして、その手術を受け終えた直後から、ギャロップと呼ばれる不規則な心音がやんで不整脈がピタリと収まり、体調が劇的に改善したのであった。担当医からは直近の検査結果ではもう健常者の数値で、100点満点とのお墨付きももらった。また、難病認定の関係では、難病認定の基準である中等症との認定から軽症への認定にダウングレードしてしまい、難病認定は更新できなくなってしまった。

ところが、例の山椿の記事が相変わらずインターネット上にアップされているため、関係各位から体調の心配をされ続けてしまっ



検査時系列グラフ情報

ている。そして、このままではいかんと考え、今回山椿に続編を投稿した次第である。

「ご心配いただいた皆様ありがとうございました。投薬治療は続けておりますが、既に危機は脱しておりますので、私の体調のことはお気遣いなされませぬようお願い申し上げます。」

ところで、私自身としてはもうすっかり良くなったつもりなので、二弁会員の方でもし心臓をひとつ分けてほしいというお方があれば、会館で私を見かけたときに声をかけてください。新橋あたり的高级割烹でお酒を飲みながら相談に乗らせていただきます。もちろんおごってもらいます。

ただし、私の心臓は、初年度登録昭和37年3月、61年落ちの代物で、しかも修復歴がありますのでご注意ください。いわゆるポンコツdeath!